



近隣の高等学校訪問
第1回



一人一人の良さを認め合いチーム力を高めていく 中央大学杉並高等学校



高校紹介の新シリーズ第1回は、中大杉並高校の大田美和校長先生からお話を伺いました。

★概要

桃井原っぱ広場や観音寺に近い中央大学杉並高等学校は、昭和38年に旧中央大学杉並高等学校が小金井市に移転したあと、その名称と校舎を引き継ぎ、男子部・女子部併設の全日制普通科高校として新たに設立されました。生徒数は男子460人、女子538人の計998人（令和3年度）です。正面玄関には、初代校長の「真善美」という校訓、建学の精神が掲げられています。10年前の創立50周年に際しスクールメッセージとして新たに「共育と共創（共に育ち、共に創る）」を宣言しました。

★中大杉並高校の特色

中大の付属高としては、杉並高等学校のほか小金井の中学・高等学校、横浜の横浜中学・高等学校、文京区にある高等学校の計4校がありますが、いずれも大学受験なく推薦で中大へ進学できます。なかでも杉並高校から中大への進学率は90%を超えトップに位置しています。

大学合格は目標ではなく、その先、よりよい社会人になるには今何をしたら良いのか、自覚的に考え、行動できる生徒を育てるのが中大杉並高校の教育です。大学受験がないだけに、3年間、部活動に全力で取り組むことが可能になります。例えば、ボート部は今年インターハイで6位入賞を果たしました。



パソコンを使った双方向の授業

もちろん、3年間の総合成績で進学できる学部が決まるだけに、勉学をおろそかにしている訳ではありません。3年生は卒業論文を書かなければなりませんし、3年間で課題図書を100冊読む必要もあります。

また、大局に立ちながら物事を論理的に考える思考法を鍛えるために、「探究マップ」という独自のワークシートを使って、生徒たちが互いに助け合いながら論議を深めていく機会もあります。

★コロナ禍での教育

遠方から電車やバスで通学する生徒が多い中大杉並高校では、授業の始まりをラッシュに遭わないよう遅らせ、食事の時はシールドを設置して黙食を徹底するなどコロナ対策に努めていることにより、クラスターはもちろん、校内感染は1件も発生していないそうです。

コロナ禍以前には、ボランティア活動として近くの保育園で音楽演奏をしたクラブもありましたが、今はそれに代わって映像配信するような例もあります。

一方で、感染対策として物理部の生徒たちが教師の指導で「足踏み式消毒器」をつくり、荻窪病院や老人施設に送ったところ、大変喜ばれたそうです。荻窪地域区民センターにも設置して頂いています。



土曜講座の一つ「カウンセリング講座」



審判を立てず自分たちで攻守交代を判断するニュースポーツ

★大田校長の思い

大田美和（おおた・みわ）校長は、中央大学文学部の教授でもあります。中大と言えば「法学部」が有名ですが、どの学部も就職実績に差はありません。高校生が大学の授業を履修できる制度の活用や、中大生との協同による読書推進活動などの「高大連携教育」によって、生徒一人ひとりの趣味や適性に合った進路選択を支援しています。

中央大学杉並高等学校

住所:167-0035 東京都杉並区今川2-7-1 電話:03-3390-3175
ホームページ:<http://www.chusugi.jp/>